

8707 柚木は指遣いを尋ねた. . . .

柚木は指遣いを尋ねた。「その指の動きをこの娘に見せてやってくれませんか。娘はピアノを習っているので、もし有名な曲ならわかるかもしれません」

山田は黙って指を動かし始めた。

「これだけです」

山田が指の動きをとめて言うと、万由子が、「済みません、もう一度おねがいします」と言った。

「何の曲かわかる？」

秋生が聞いた。万由子は首を振った。

「でも東京へ戻ったらいろいろ楽譜をあたってみるわ」

「瀬川先生ならすぐにわかるだろうな」と柚木は言った。

連城三紀彦

『敗北への凱旋』

[許容訳例]

Yuki asked about the finger-work: "Will you show my daughter the movement of the fingers? She has studied the piano, so if it is a famous piece, she may recognize it."

Yamada began to move his fingers.

"That's all," said Yamada when his fingers stopped.

"I'm sorry, but will you do it once again?" said Mayuko.

"Do you know what it is?" Akio asked. Mayuko shook her head, then said, "But I'll search the scores when I get back to Tokyo."

"I think Mr. Segawa probably knows the name," Yuki said.

[翻訳例]

Yuki decided to ask about the fingering: "Would you show my daughter here the fingering? She's studied the piano, so if it's a well-known piece she may recognize it."

Without saying anything, Yamada began to move his fingers.

"That's all," he said when he came to the end.

"I'm sorry, but would you do it again?" said Mayuko.

"Do you know the name of the piece?" asked Akio. Mayuko shook her head. "But when I get back to Tokyo, I'll look through the scores for it," she said.

"I imagine Prof. Segawa would recognize it immediately," said Yuki.

■柚木は指遣いを尋ねた。(8707)

★「指遣い」は the finger-work とか the fingering です。

★「指遣いを尋ねた」は「指遣い」そのものを尋ねるのでないで「指遣いについて」と補って考えて asked about ~です。また、「尋ねた」はそのまま asked でもいいですが、英語では、このままでは唐突すぎるので、次のセリフの語調から「(思い切って) 尋ねてみることにした」と改めて decided to asked about ~とします。

■「その指の動きをこの娘に見せてやってくれませんか。 (8707)

★「その指の動き」は the fingering; the finger-work でもよいし、文字通りに the movement of the fingers でもいいでしょう。movement に付けた the は「その曲に使う」という含みであり、finger に付けた the は「実際に弾くというシチュエーションを想定した上で」という意味合いです。なお、how to work fingers (指とうものの動かし方) は駄目です。

★「この娘」は、ここだけ見ると単に「この女の子」ですが、次に「娘はピアノを習っているので」と言っているので親子であると推定することが出来ます。したがって、「この」は単に「自分の娘」という意味ではなく「ここにいる私の娘」という意味ですから my daughter here がいいでしょう。ただし、here は省いても構いません。なお、仮に「この娘」が自分の娘でない場合とすると、this girl ではなく this young woman とか this young lady です。

★「～をこの娘に見せてやってくれませんか」は Will [Would] you show my daughter (here) ~?です。

■娘はピアノを習っているので、もし有名な曲ならわかるかもしれません」 (8707)

◆現在進行形か現在完了か (・・・している)

「娘はピアノを習っている」は二つの場合が考えられます。一つは「今現在ピアノを習っている」(現在進行形) という場合。もう一つは「(過去において) ピアノを習っている」、すなわち「ピアノを習ったことがある」(現在完了) という場合です。しかし、前者の場合でも、ここでは‘ピアノが弾けるか弾けないか’が問題になっている訳ではありませんから She is learning to play the piano. ではありません。She is learning the piano.です。後者の場合、次の「(だから) もし有名な曲なら・・・」という言葉から、現在ピアノを習っているというよりも、過去においてピアノを習い、しかもかなりの時間をかけていることが予想されます。それでここは後者‘ピアノを習ったことがあるので、一応弾ける’と解するのが順当でしょう。となると「ピアノを習っている」は She has studied the piano. くらいが適当でしょう。なお、「ピアノができる」ということを謙遜して「ピアノを習っている」と言ったのであれば She has learned the piano. でもいいです。この場合も has learned to play ~ は好ましくありません。これは「ピアノを習得した・マスターした」というニュアンスになるので使えないと思います。

● [ので]

ここは軽く so でいいです。

● [もし・・・なら] (仮定)

「もし有名な曲なら」は「それが有名な曲であるなら」ということですから、if it is a well-known piece です。

★「有名な」は famous (名高い; 高名な) よりも well-known (だれでも知っている) がいいでしょう。

★「曲」は、メロディーが一つの場合なら `tune` で構いませんが、ここは `piece` がいいでしょう。`piece` ならメロディーが一つの場合でもそれ以上の場合でも、いずれの「曲」にも使えます。

★「わかるかもしれません」は She may recognize it.が best です。他には She may be able to tell you the name.とか She may know the name.などでもいいでしょう。

■山田は黙って指を動かし始めた. (8707)

★「黙って」は「(それには) 答えないで」とか「返事をしないで」ということですから without replying; without saying anything です。in silence; silently でも間違いではありませんが、これらは「静かに；音もたてないで」の感じで、指の動き (move) を修飾するように感じられます。

★「動かし始めた」は began to move his fingers です。なお、began の代わりに started も可能です。

■ 「これだけです」 (8707)

★「これだけです」は That's all. です。ただ、これをそのまま出すのは、英語としては唐突です。したがって、日本語にはありませんが、Soon they (=his fingers) stopped. と補ってから、"That's all," he said. とするか、「山田が指の動きをとめて言うと」と組み合わせないと、英語としては不自然です。He began to move ~. という文章の後で、いきなり "That's all." と続けると、どうしても飛躍した感じを免れないのです。

■山田が指の動きをとめて言うと、万由子が、「済みません、もう一度おねがいします」と言った。(8707)

★「指の動きをとめて・・・」は when he (had) finished [stopped]とか, when he came to an end; when his fingers stopped など. なお, ここは直訳すると he stopped the movement of his fingers でしょうが, これは「指がまだ動きたがっているのを止める」というような感じでおかしいと思います.

★「済みません」は、Excuse me.では駄目です。これは話しかけるときとか、途中で割り込んでいく時などに使う言葉です。ここでは相手に何かを中断させるわけではなく、読み取れなかった自分の無力を詫びているのですから I'm sorry, but...です。

★「もう一度おねがいします」はWould [Will] you do it (once) again?です。Would you...の方が丁寧でいいです。once again の代わりに once more でも構いません。なお、it の代わりに that を用いることは出来ません。直接的で、「それそのもの」の感じだからです。

■ 「何の曲かわかる？」(8707)

★「何の曲かわかる？」ですが、この日本文では「わかる」が三回出てきます。いずれの場合にも `recognize` を使うことが出来るのですが、同じ頁に同じ単語を幾度も使うのは芸の無いことですから、ここは「何の曲か名前がわかりますか」とか「何の曲か名前を知っていますか」とか、単語を複数回使うのを避けた表現を試してみましょう。

すか」とかにして、Do you know what it is? とか、what it is の代わりに the name of the piece とかにします。Can you guess what it is? というのは「あててごらん」で、ここでは使えません。

■秋生が聞いた。 (8707)

★「秋生が聞いた」は ("Do you know the name of the piece?") asked Akio. です。なお、順序を変えて Akiko asked でも構いません。

■万由子は首を振った。 (8707)

★「首を振った」は「首を横に振った」ですから shook her head です。shook her neck とは言いません。

■「でも東京へ戻ったらいろいろ楽譜をあたってみるわ」 (8707)

● [でも] (逆接)

「でも」は but しかないでしょう。

● [ら] → [て] (同時)

「東京へ戻った [ら]」の [ら] は仮定ではなく、「東京へ戻っ [て]」という意味ですから when I get back to Tokyo です。

★「いろいろ楽譜を当たってみるわ」は「自分でいろいろ [手元にある全部の] 楽譜を調べて見る」ということでしょうから I'll look through the scores for it. とすればいいでしょう。for it は、それらしい曲がないかどうか、という感じです。また、the scores とすれば、「手元にある全部の楽譜」という意味になりますから「いろいろ」は訳す必要はないと思います。なお、ここは「即断の will」(その場で即断して述べる) ですから I'll... です。

■「瀬川先生ならすぐにわかるだろうな」と柚木は言った。 (8707)

● [なら] (仮定)

「瀬川先生 [なら]」の [なら] は、仮定法です。英語の仮定法は「法の助動詞」の過去形で表します。Mr. [Prof.] Segawa could [eould] …とすればいいでしょう。

★「わかるだろうな」はいろいろな書き方が出来そうです。I think [imagine] ~ could probably tell you the name. でいいし、この tell you the name の代わり recognize it としてもいいですし、could の代わりに would も可能です。また、know を用いると I think ~ probably knows the name. となります。なお、ついでですが、「わかる」のところを Mr. Segawa could probably tell the name. とすることは出来ません。tell をこの形で使うと、たとえば、Can you tell the price just by looking at it? (見ただけで値段がわかりますか) とか、I can't tell how old she is. ((見ただけでは) 彼女が何歳かわからない) のように「推測する・判断する・見当をつける」という意味になります。ここでは「教えてくれる」という意味で使うのですから tell you the name です。

★「すぐに」は immediately ぐらい。なお、know は状態動詞なので*knows the name immediately とは言えません。